
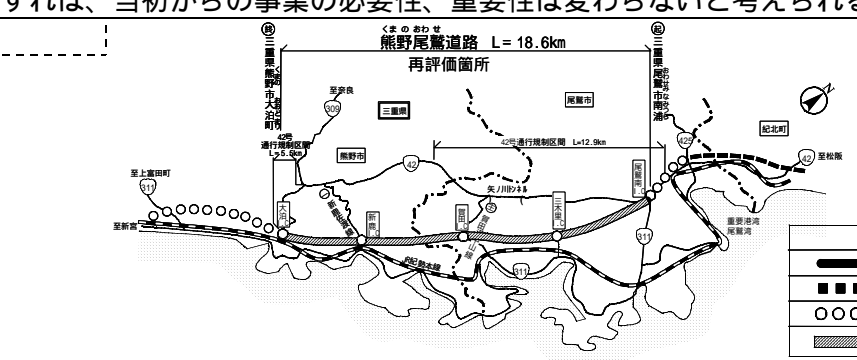


再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木克宗

事業名 一般国道42号 <small>くまのおわせどうろ</small> 熊野尾鷲道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局															
起終点 自：三重県尾鷲市南浦 至：三重県熊野市大泊町	延長 18.6km																
事業概要 一般国道42号は、静岡県浜松市を起点とし、豊橋市、田原市、鳥羽市、伊勢市、松阪市、尾鷲市、熊野市、新宮市、田辺市などの主要都市を経て和歌山県和歌山市に至る延長531.6kmの広域的な主要幹線道路であり、熊野尾鷲道路は、三重県尾鷲市南浦から熊野市大泊町に至る延長18.6kmの自動車専用道路です。																	
H8年度事業化	H8年度都市計画決定 （H11年度変更）	H12年度用地着手															
H14年度工事着手																	
全体事業費 約1,400億円	事業進捗率 16%	供用済延長 0km															
計画交通量 12,200台/日																	
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B/C</td> <td style="width: 15%;">(事業全体) 1.1</td> <td style="width: 15%;">(残事業) 1.2</td> </tr> </table>	B/C	(事業全体) 1.1	(残事業) 1.2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">総費用</td> <td style="width: 15%;">(残事業)/(事業全体)</td> <td style="width: 15%;">総便益</td> <td style="width: 15%;">(残事業)/(事業全体)</td> </tr> <tr> <td>792/895億円</td> <td>728/830億円</td> <td>957/957億円</td> <td>867/867億円</td> </tr> <tr> <td>維持管理費：65/65億円</td> <td></td> <td>走行時間短縮便益：84/84億円</td> <td>走行費用減少便益：5/5億円</td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	792/895億円	728/830億円	957/957億円	867/867億円	維持管理費：65/65億円		走行時間短縮便益：84/84億円	走行費用減少便益：5/5億円
B/C	(事業全体) 1.1	(残事業) 1.2															
総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)														
792/895億円	728/830億円	957/957億円	867/867億円														
維持管理費：65/65億円		走行時間短縮便益：84/84億円	走行費用減少便益：5/5億円														
基準年 平成17年																	
事業の効果等 ・安全で安心できる暮らしの確保（三次医療機関への移動時間の短縮） ・災害への備え（一般国道42号の通行規制の解消、災害で孤立化する集落の解消）																	
他5項目に該当																	
関係する地方公共団体等の意見 熊野尾鷲道路は、東紀州地域の安全で信頼性の高い道路及び安心できる暮らしの確保のため重要な役割を果たすことが期待されており、熊野市をはじめとする2市3町の首長で構成される熊野尾鷲道路建設促進期成同盟会より早期整備の要望（平成13年7月18日）を受けている。																	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・高速交通体系から取り残された地域 ・豪雨等による孤立化が多発する地域 ・急峻な地形の連続する地域 ・「熊野古道」による観光の活性化																	
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・用地取得率は32%（平成17年度末見込み） ・尾鷲南ICから三木里IC間は、トンネル工事や道路改良工事等を全面的に実施中																	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 尾鷲南IC～三木里IC間、L=5.0kmを平成19年度に暫定2車線で供用予定。																	
施設の構造や工法の変更等 インターチェンジのコンパクト化やトンネル設計の見直し等コスト縮減を図っている。																	
対応方針 事業継続																	
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。																	
事業概要図																	
																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px;">——</td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px;">■■■■</td> <td>事業中</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px;">○○○○</td> <td>調査中</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px;">▨▨▨▨</td> <td>再評価箇所</td> </tr> </table>			——	供用中	■■■■	事業中	○○○○	調査中	▨▨▨▨	再評価箇所							
——	供用中																
■■■■	事業中																
○○○○	調査中																
▨▨▨▨	再評価箇所																

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。